

平成29・30年度
鹿児島県教育委員会指定研究協力校（読書指導）研究公開
霧島市立青葉小学校

1 研究主題

読書の良さを味わい、自分の世界を広げることができる児童の育成

2 研究発表

霧島市立青葉小学校では、創立以来継続している読書指導を土台として、子どもたちが主体的に本を手にし、本を介して語り合う学校を目指して取り組んできました。

研究発表では、読書指導の年間指導計画をもとに読書活動を取り入れることで、子どもたちが意欲的に学習に取り組んだり、読書内容の幅を広げたりすることができたこと、また、全国学力・学習状況調査の結果

において、国語Bが全国水準より高い結果となった研究の成果が発表されました。参加者からも「これまでの研究の積み上げの成果を感じた。」との声が聞かれました。

なお、仮説及び主な取組は以下のとおりです。



【中村真也教諭による研究発表】

【仮説1】

各教科等で、本や図鑑、新聞、資料等を読むことを通して、知識や教養の幅を広げることができれば、読書の良さを実感し、情報活用能力が高まるのではないかな。

〈具体策〉

- ・ 平成28年度作成の指導計画を改良→実践→評価→再改良
- ・ 各教科等における研究授業で立証 ・ 子供からの聞き取り、アンケート

【仮説2】

適切な読書環境を整えれば、児童が楽しみながら主体的に読書活動に取り組む姿勢を身に付け、読書の日常化が図られるのではないかな。

〈具体策〉

- ・ 読書指導係、学校司書を中心とした環境整備〔設営、広報、関連図書設置〕
- ・ 教育課程日課表での位置付け、各種読書活動〔読み聞かせ、ブックトーク等〕
- ・ 図書委員会を中心とした取組、各種読書活動〔ビブリオバトル等〕
- ・ 家読（うちどく）推進と評価〔地域でのお話会、読み聞かせ会、音読会等〕

【仮説3】

児童が読書活動で得た知識や教養を、共有、共感してもらいたいという欲求に基づいて、自分なりのこだわりとして他者と伝え合うことができれば、表現力が高まるのではないかな。

〈具体策〉

- ・ 読書記録カードや感想文の指導と作品の蓄積
- ・ 親子、学級読書会〔感想及びアンケート〕 ・ 語彙表の活用

3 公開授業

2年生、5年生の2学級で授業が公開されました。年間指導計画に位置付けられた読書指導における授業での具体的な取組を参観することができました。

2年生では、日置尊仁教諭が授業を行いました。本単元を貫く読書指導について第1時では、子どもたちの興味・関心を高めるため、これまでの読書経験を生かし、登場人物からシリーズ名を考える活動から授業が始まりました。調べる・深める過程では、学校司書が作者「アーノルド・ローベル」について説明したり題名を当てるアニメーションをしたりするなど、子どもたちの意欲を高める仕掛けが工夫されていました。単元の最後に行う音読劇に対する意欲を高める授業でした。



【2年生公開授業の様子】

5年生では、内門真悟教諭が授業を行いました。単元の最後に行うビブリオバトルに向け、発表メモを元に互いにアドバイスを言い、よりよい発表にするために内容や表現を吟味し合う時間でした。チェックリストを用いて評価し合う中で、子どもの中に自然に『評価の視点』が定着しており、納得のいく修正につながるアドバイスができていました。ビブリオバトル本番がさらに楽しみな授業でした。



【5年生公開授業の様子】

4 分科会

分科会では、子どもの学びの姿について語り、参加者一人一人の学びや成長につなげることを目的として、語ることを大切にした授業研究が行われました。事前に記入していた付箋紙を貼りながら、子どもの学びの姿について熱心な語りが見られました。参加者からは、「分科会のやり方が新鮮で、とても温かい雰囲気で行われ、意見交換をしやすかった。」という感想が聞かれました。



【ワークショップ型授業研究】

5 全体会

全体会では、「国語科教育と読書指導」と題して、鹿児島国際大学大学院福祉社会学研究科長の千々岩弘一教授の講演が行われました。生涯学習の観点から見た読書の意義、不読者に対して読書生活を再構築するための支援の在り方について、豊富な経験やこれまでの研究の成果等を分かりやすく御教示くださいました。青葉小学校の「研究紀要」と関連させながらの講演は、参加者に多くの示唆を与えると同時に、読書指導の在り方について深く考えさせる契機となりました。



【全体会での講演】

